

平成 28 年度新規課題

研究区分	革新(地域戦略プロ)	試験期間	H28~30
課題名	自給飼料を活用した豚肉・鶏肉・鶏卵の差別化技術および低コスト生産技術の開発		
関連の重要研究課題名	Ⅱ 低コスト・省力化・高位安定生産技術の開発 高品質畜産物の生産技術の開発		
主担当試験場・部	畜産試験場・養豚養鶏部 (共同機関：(国)畜産研究部門、山形県他)		

【現状と課題】

TPP の大筋合意により今後安価な輸入豚肉が増えることが予想される。県産豚肉がこれに対抗するためには、コストを削減するとともに特色のある豚肉を生産し差別化を図ることが必要である。

これまでの研究から、飼料用米を給与した豚肉は脂肪中のオレイン酸が高まることが明らかとなった。一方、豚飼料のタンパク源として一般的に利用されている大豆粕は高価格で、飼料価格高騰の一因となっている。そこで、タンパク含量の多い乾燥酒粕を大豆粕の代替えとして利用する方法について検討した結果、乾燥酒粕を給与すると、豚の発育や脂肪のオレイン酸を低下させずにロースの筋肉内脂肪含量が増加し、飼料費が低減する可能性が認められた。

今後、飼料用米と乾燥酒粕等の県内飼料資源を用いた、県内自給割合が高い飼料の給与により、肉質や食味が良好な豚肉を低コストで生産する技術を確立する。

【試験研究計画】

1. 県内自給飼料多給による高品質豚肉の低コスト生産技術の確立
  - 乾燥酒粕給与による豚肉の食味向上効果の検討
  - 日本酒製造・販売及び豚肉販売・加工業者等との連携によるブランド化の検討
  - 飼料用米、乾燥酒粕、規格外小麦等の利用による飼料コスト低減効果の検討
2. 養豚農場における生産実証
  - 生産現場での飼養成績、肉質成績及び食味の調査と実需者の評価

輸入原料主体飼料を給与  
輸入豚肉や他県産豚肉と  
明確な差別化が困難

飼料工場近郊より飼料が高価格  
枝肉価格が下落すると先に  
収益低下



技術確立・現場実証

差別化

飼料用米・酒粕給与による食味向上  
県内飼料原料の給与による輸入豚肉との差別化

低コスト化

食品製造残さ・規格外農産物の飼料利用

【期待される成果】

1. 長野県産として差別化販売できる豚肉の生産が可能となり、養豚の収益性が向上する。
2. 食品製造粕の飼料利用が推進されるとともに飼料費が低減できる。